報道と人権部会勉強会報告（北島圭氏：２００９／６／１５）

東京弁護士会人権擁護委員会報道と人権部会は，２００９年６月１５日，㈱電経新聞社編集部記者北島圭氏を講師としてお呼びし，勉強会を開催しました。

当部会では，昨年より，インターネットでの言論を前提として，「匿名言論の表現の自由」というテーマで勉強会を繰り返しておりました。従来，表現の匿名性は自由な表現を確保するために重要な役割を果たしており，民主主義の維持発展のために匿名言論は十分に保障されるべきであるとの見方もあったかと思いますが，インターネットの普及により，匿名言論がもたらす様々な弊害が看過し得なくなった現状においても匿名言論について従来同様の保障を与えるべきかという問題や，制限・規制等の要否等について検討し，現在の状況を踏まえた上での「匿名言論」の再評価を検討しようというのが，これら勉強会の趣旨です。

今回は，ネット上で繰り広げられている様々な問題を取材し続け，本年４月に出版された「暴走するネット社会－ネットは人間に幸福をもたらしたか」（共栄書房）の著者である電経新聞社貴社の北島氏にお越しいただき，ネット社会，匿名言論の現状，動向等について，実際にネット上で発生した事件などを例に挙げながら，お話しいただきました。

北島氏のお話は，例えば，元々軍事目的で開発されたという「生い立ち」から，匿名性を強調する形で台頭してきたというインターネットの性質を紐解くなど，多角的で幅広いものでしたが，特に印象に残ったのは，「これまで過大評価されていたインターネットの影響力が，再検討される時期に来ているのではないか」との指摘でした。

北島氏によれば，インターネットの影響力の減少は，インターネットのマイナス面にも現れているとのことです。これまでの，私の認識としては，名誉毀損，プライバシー侵害，ネットいじめ，誹謗中傷等，インターネットの弊害に関する問題は，年々深刻化しており，今後も増加の道を辿るのではないかというものでした。しかし，北島氏によれば，インターネットの弊害がピークにあったのは，概ね２００６～２００７年ころであり，現在は終息傾向にあるとのことでした。

終息傾向に向かった要因として，北島氏は，

①匿名言論であっても，度が過ぎると，所在を突き止められることがユーザーに広く認知されるようになった。

②インターネット事業者からネット限界論が出るようになった。

③既存マスコミがインターネット事業を指向するようになった。

の３点を挙げられています。

①との関係では，お笑いタレントのブログ炎上事件で，中傷した人物らが書類送検されたことなどが，きっかけとなっており，現在も，荒らし・炎上は発生しているが，度を超えたものが減り，小粒化しているとのことです。

また，②については，『情報革命バブルの崩壊』（山本一郎著　文春新書），『ウェブ

はバカと暇人のもの』（中川淳一郎著　光文社新書）など，インターネット事業に関わった方々が，ネットやネットユーザの実情を描写した書籍が最近発行されていることや，２ちゃんねる売却，２ちゃんねるユーザーの減少，ヤフージャパンの利益鈍化（同社は世界不況の影響としているが，ユーザ離れも起こっていると思われるとのことでした。），ネット専業ニュースサイトの苦戦（「オーマイニュース」の閉鎖，「ＰＪニュース」も苦戦しており，ヤフー等に記事を売って収益を得ているとのことです。）等の現状を挙げ，現在のネットジャーナルが既存ジャーナルの代替として育っていないことなどを指摘されていました。

③に関連しては，広告収入激減，ユーザ離れが進行する中，既存マスコミがインターネットを指向しているが，新聞，雑誌がネット言論に参入することで，従来のような野放図な言動が終息するとの見方もあるとのことです（この点については，インターネットが大メディアに牛耳られるとの懸念もあるとのことです。）。

北島氏は，『最近よく聞く声』として，「ブログ・ＳＮＳをやめた」（書いても読んでくれる人がいないし，自分も，他人の書いたものはつまらないので読まないというのが理由のようです。），「ニュースしか読まない」（新聞社の配信した「Ｙａｈｏｏ！」などのニュースのことであり，インターネットが既存メディア情報の依存度を強めているとのことです。），「動画は見る」（インターネットが，活字メディアから動画メディアへと変貌しようとしていることの現れとのことです。）といったものを紹介されました。

また，今後関心のある取材テーマとしては，「インターネットを利用しない人たちの動向」「既存メディアへの揺り戻し」とのことでした。

そして，インターネット匿名言論における今後の展望については，「炎上等についてかつてのような激しさはなりを潜め，アングラ化が進行」「熱しやすく冷めやすいネットユーザが，動画等の新たなサービスに目を向け，活字系はシュリンクする」「読む側のリテラシが向上し，匿名言論は信用されなくなり，匿名言論の影響が低下する」「健全な言論は残るだろうが，その影響力も限定的なものにとどまる公算が高い」とのことでした。

なお，当部会では，インターネット上の匿名言論をテーマとしたシンポジウムを２００９年９月１４日に開催する計画がありますが，北島氏には，同シンポジウムにパネリストとしてご参加いただく予定です。

以　　上

（文責：報道と人権部会　部会長西岡弘之）